

# コロナに負けず、 がんばっています！〈第2弾〉

新型コロナウイルスの影響が依然として続いておりますが、この逆境に負けずにがんばっている会員組合の取組について、9月号に引き続き、ご紹介します。

## 県産木材の輸出拡大に取り組む

## (秋田県木材産業協同組合連合会)

秋田県木材産業協同組合連合会(大坂真一理事長、会員9協同組合)では、県産木材の輸出拡大に積極的に取り組んでいます。

県産木材は、国内での産地間競争や住宅着工数の減少により、厳しい経営環境におかれています。そこで、県内の木材加工事業者等の連携による海外マーケットへの県産木材製品の新たな販路開拓と認知度向上を目的に、本会では、木材・木製品事業者を対象に販路開拓に関する懇談会を平成30年度と令和元年度の2年度にわたって開催しました。

この懇談会を契機に、当連合会では、北米に向けた製材品の輸出を開始し、令和2年度の秋田港における国産製材品の輸出実績は、国内の主要な港の中で8番目となるなど、輸出拡大の取組が功を奏しています。

今後は、中国等の近隣アジア諸国での新たな販路を開拓するとともに、安定供給体制を強化

して、毎月20コンテナ、年間6,000㎡の輸出を目指すこととしています。

連合会の橋場専務理事は、「木材需要等、現地での情報収集を強化するとともに、低い加工度で、小規模の木材加工事業者でも参加しやすいようにサポートしたい。」と述べ、連合会が先頭に立って、木材加工事業者をまとめ、秋田港からの木材輸出を促進していく方針です。



[輸出している製材品]

## 秋田市から道路照明灯LED化事業を受託

## (秋田電気工事協同組合)

秋田電気工事協同組合(布谷博理事長、組合員167名)は、平成24年に「秋田市町内防犯灯LED化(ESCO)事業」の事業者を選定され、防犯灯のLED化・維持管理事業を事業協同組合として全国で初めて共同受注しました。さらに平成25年には官公需適格組合証明を取得し、官公需の受注拡大に向けた取組を強化しています。

この度、これまでの実績を活かして、秋田市の公募型プロポーザル入札に参加し、「秋田市道路照明灯LED化事業」を受託しました。

本事業は、秋田市内の市道に設置されている照明2,518灯を来年8月までに全てLEDに交換することとなり、当組合によると、事業協同組合が道路照明灯のLED化工事を共同受注するのは全国的に非常に珍しいとのことでした。

布谷理事長は、「地域経済の活性化に貢献するとともに、組合員の経営安定や収益増加に繋がる共同事業を推進していきたい。」と今後の抱負を述べました。

組合では、今後も組合員のための共同受注事業を展開し、活性化を図る方針です。



[作業の様子]

## 終活支援を行っています

## (秋田シニアライフ協同組合)

秋田シニアライフ協同組合(鈴木道雄理事長、組合員18名)では、無料相談窓口「あきた終活支援センター」を通じて、県民の終活をサポートしています。

今年は、新型コロナウイルスの影響で、県外に住んでいて帰省を自粛している県内出身者から、墓の掃除や空き家の管理(草刈りなど)の代行サービスの依頼が増えている一方で、月2~3回開催していた終活セミナー等が全く実施できず、情報発信の場が失われていました。

そこで、新たな取組として、秋田ケーブルテレビに協力を得て、終活の始め方や相続・家屋解体等について、週2回ほど情報を発信しています。

菅原事務局長は、「何をすることが『終活』なのか、何から準備すれば良いのかをもっと多くの人

に知ってもらいたい。」と述べており、今後も周知に力を入れていくこととしています。

来年には、秋田で生涯活躍するまちづくり(秋田版CCRC)構想のモデルケースとして注目を浴びている秋田市の拠点施設「クロッセ秋田」へ無料相談窓口を移転し、さらなるサービス向上を目指しております。



[昨年の終活フェアの様子]

## 医療用ガウンやマスクを製造

コーディネート秋田協同組合(佐賀善美理事長、組合員6名)では、新型コロナウイルスの影響による販売不振で、各衣料メーカーの売上が激減したため、県内縫製企業の受注が前年に比べ秋冬物で6~7割と大幅に落ち込んでおり、さらに今後の春夏物の受注も大幅に減る見通しとなっています。

そのような中で、当組合では自治体からマスク約7万枚、国から医療用ガウン約30万枚を共同受注し、各組合員企業に発注することにより、衣料メーカーからの受注減少分をカバーしています。

組合員企業の縫製工場は、今回の受注により、マスクや医療用ガウンを生産するノウハウを得た他、withコロナ時代に向けた生産体制を再構築する良い契機となりました。

佐賀理事長は、「未だかつてない厳しい状況では

## (コーディネート秋田協同組合)

あるが、組合員企業と助け合い、今後も組合員のためになる事業を実施していきたい。」と抱負を述べています。



[医療用ガウンとマスク]

## なまはげ太鼓ライブで温泉郷を盛り上げる

男鹿温泉郷協同組合(山本貴紀理事長、組合員6名)は、男鹿市より男鹿温泉交流会館「五風」の指定管理を受託し、会館内で開催されるなまはげ太鼓ライブ等のイベント運営を実施しています。

今年は、新型コロナウイルスの影響で、県内外からの個人・団体観光客や修学旅行がキャンセルとなり、4月25日から今シーズンの公演を開始する予定であった“なまはげ太鼓”ライブも中止を余儀なくされました。

その後、県による外出自粛要請が緩和された6月19日から、週末のみ公演を再開し、7月17日から平日も含め本格的に再開されましたが、手指消毒やマスク着用の他、収容人数を200人程度に制限するなど、感染予防対策を徹底しています。

組合に加入しているホテルの売上は前年比で40%以上減少しましたが、秋には県内の小中学校などから修学旅行の予約が入っている他、GoTo

## (男鹿温泉郷協同組合)

トラベルキャンペーン等の効果により、首都圏からの個人・団体観光客も回復傾向にあり、組合ではリニューアルしたホームページを活用するなどPRを積極的に行い、男鹿温泉郷を盛り上げていくこととしています。



[なまはげ太鼓ライブの様子]

## ハロウィンイベントを開催

10月17日(土)、鹿角市花輪大町商店街振興組合(川口智理事長、組合員45名)において、ハロウィンイベントが開催されました。

このイベントは、新型コロナウイルスの影響により、激減した来街者と各店の売上が早期に回復させ、花輪の商店街に賑わいを取り戻そうと企画されたもので、県の商店街消費喚起支援事業補助金を活用しました。

当日は、感染防止対策を徹底した上で、子どもたちへのお菓子の配布やオリジナルマスクコンテスト、おもちゃ病院、飲食の出店などを行い、来街者を楽しませました。

今年は、「花輪ばやし」をはじめとして地域の様々な行事や催しが中止となり、地域住民が集う機会がありませんでしたが、他の商店街等に先駆けてイベントを実施したことで、予想を超える

## (鹿角市花輪大町商店街振興組合)

大勢の親子連れが商店街に足を運びました。

組合の遠藤副理事長(兼販促部長)は、今日のイベントを契機として商店街だけでなく、鹿角市全体の盛り上げにつなげていきたいと話しています。



[ハロウィンイベントの様子]